

やさしい病害虫講座 11 害虫の予防散布は効果があるのか？

木村 裕

頭が痛いときにはトンプク、下痢をしたときには正露丸、流感にかかったときはタミフルと、皆さんは症状に合わせて薬の使い分けをしていますね。野菜や植木でも同じです。発生している害虫や病気に合わせて最も効果的な薬剤を選択する必要があります。皆さん「そんなことは十分にわかっている」と言いたいところでしょう。しかし、皆さんが買ってくるのをみていると、殺虫剤ならマラソン、ついでスミチオン、殺菌剤ならダイセンが多いようです。

庭木の害虫対策でよく受ける質問が「植木の害虫を予防するためにどんな薬剤を散布したらよいのでしょうか?」「いつごろ散布したらよいのでしょうか?」です。答えは???です。

事前に散布しておけば害虫が寄り付かないという好都合な殺虫剤はありません。多くの殺虫剤は今そこにいる害虫を殺すのが基本です。散布直後に飛んでくるドジな害虫に対しては効果がありますが、最近の農薬はパッと効いて、パッとなくなるのが特徴で、1週間も効果が持続するのは稀です。それゆえ虫の姿を見てからまくようにしてください。

例外的に植えつける前に株元の土の中に混ぜ込む粒剤(粒状の薬剤でそのまま使う)は、じょじょに成分が溶け出すので30日くらいは効果が持続します。土の中の害虫、例えばコガネムシの幼虫を防除するにはいいですね。またこの薬剤は植物の根から吸収されて地上の葉や芽に移行しますのでアブラムシなどの防除にも非常に効果的です。ただし有効期間内(30日程度)のみです。

この粒剤の地上の虫に効果があるのは、アブラムシが主で、アオムシではまだ生れてまもない小さな段階の虫のみです。もう一つ大事なことは、果樹や植木では効果がないということです。鉢植えの小さな苗木では少し効果が期待できる程度です。地植えの庭木や果樹では1本当たり1kg(1袋)くらいを樹の回りにまけば効果が現れますが、それとともに樹に対しても影響があり、枯れるこ

とも少なくありません。

害虫にはいろいろありますが、薬剤を選択する面からグループ分けをすると、

- ・ 汁を吸う虫：アブラムシ類、アザミウマ類、グンバイムシ類
- ・ 葉をかじる虫：アオムシ、ヨトウムシ、ケムシ類、テントウムシダマシ類
- ・ カイガラムシ類
- ・ ハダニ類、ホコリダニ類

これら全てに効果のある薬剤はありません。それゆえ何を狙うのかによって薬剤が異なります。なんにでも効くと称する薬剤は残念ながらどの虫に対しても効果が低いです。一方汁を吸う害虫にのみに効く薬剤は汁を吸う虫に対しては非常に効果が高く、葉の裏に潜んでいる虫に対しても劇的な効果があります。

ハダニ類やホコリダニ類には通常の殺虫剤では効果がありません。ハダニ類は昆虫ではないと言ってしまうまでもありますが、散布すれば成虫や幼虫はかなり死にます。しかし卵は生き残ります。この虫はにわとりのように毎日卵を産み続けているため、寄生した葉には虫の数の何倍もの卵があり、すぐに孵化してきますので1週間もあれば元の状態にまで復活します。それゆえこの虫の防除のためには卵を殺すことが必須で、ハダニ専用剤を散布せねばなりません。一方このハダニ剤はアブラムシやアオムシなどには効果はほとんどありません。

カイガラムシは常にロウ状の殻を被っているため、薬剤を散布しても虫には直接かかりません。「今日は雨が降っているのかな」と思われる程度です。とくに皆さんの目に触れる時期は成虫の段階になっているので抵抗力も最大になっています。弱点は、卵から孵化してお母さんの殻から外へ這い出すときです。海がめが卵から孵化して海へ移動する時期が危険な時期ですがそれと同じで、孵化直後は殻がないので防除適期です。